

今年度が2つできてしまった場合の対処方法

期末更新処理には、新規データ領域に更新する〔新規更新〕と、更新先のデータ領域を指定して、選択した領域に更新する〔再更新〕があります。

〔再更新〕を行うタイミングで、〔新規更新〕を行ってしまいますと、今年度の領域が2つできてしまいます。2つ目の領域は間違えて入力してしまう可能性がありますので、削除していただくことをお勧めします。

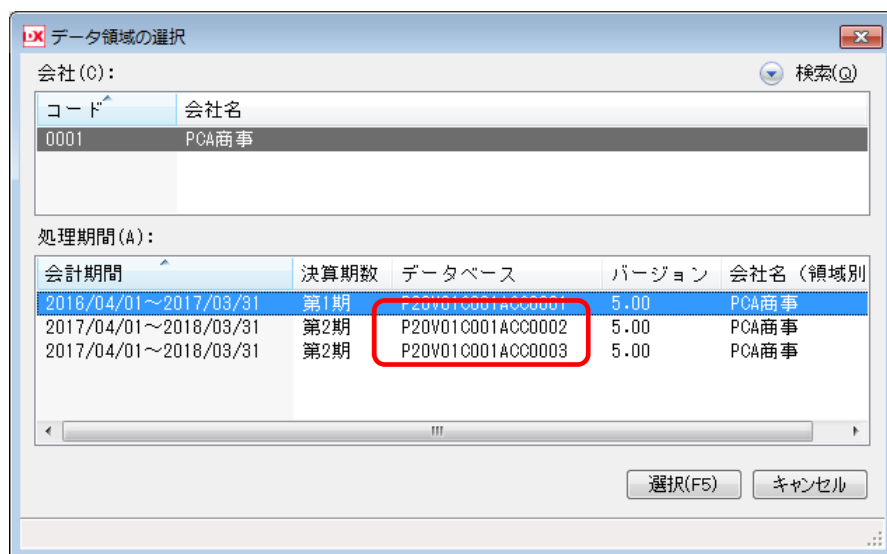
また、仕訳データが入っている今年度の領域に改めて、〔再更新〕を実行し、正しい残高を反映させる必要があります。

① 誤って削除した場合に備え、「ファイル」－「データ領域の一括バックアップ」にてすべての領域のバックアップを実行します。

② 「ファイル」－「データ領域の選択」を起動します。

例えば、前年度がPCA商事の第1期、今年度がPCA商事の第2期で、第2期が2つできてしまった場合、第2期のデータベースの番号を確認します。

以下の画面では、第2期のデータベースの番号は「P20V01C001ACC0002」と「P20V01C001ACC0003」です。各領域を選択し、どちらの領域に新年度の仕訳データが入力されているかを確認します。



③ 各データ領域を選択後、「日常帳票」－「仕訳伝票発行・チェックリスト」や「合計残高試算表」で金額の確認をします。

また、「ファイル」－「データ件数表示」を選択すると、入力済みの仕訳の件数などが確認できます。両方の領域に仕訳データが入力されていた場合は、お手数ですが、カスタマ・アドバイザリセンターまでお問い合わせください。

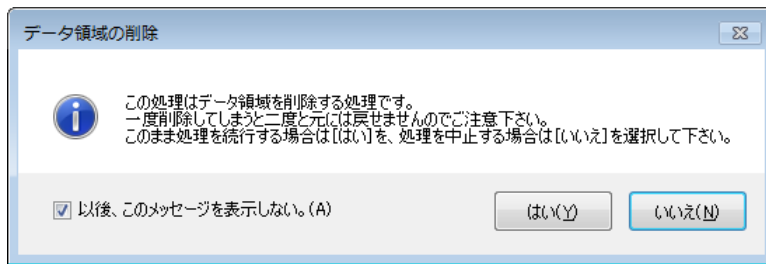
項目	件数	項目	件数 (明細数)
勤定科目	215	仕訳データ	30 (74)
補助科目	12	仕訳データ(二重線)	9 (26)
部門	4	仕訳データ(合計)	39 (100)
部門グループ	1	自動仕訳	80 (97)
摘要	37	予約伝票	1 (1)
配賦パターン	1		
伝票エラーメッセージ	1		
会社口座	2		
金融機関	3		
振込先	1		
過年度実績データ	62		
予算データ	0		
残高ファイル	214		

④ 残したい領域と削除する領域の確認ができましたら、「ファイル」－「データ領域の選択」を起動し、前年度の領域を選択します。

会社 (C):	検索(Q)			
コード	会社名			
0001	PCA商事			

処理期間(A):				
会計期間	決算期数	データベース	バージョン	会社名 (領域別)
2016/04/01~2017/03/31	第1期	P20V01C001ACC0001	5.00	PCA商事
2017/04/01~2018/03/31	第2期	P20V01C001ACC0002	5.00	PCA商事
2017/04/01~2018/03/31	第2期	P20V01C001ACC0003	5.00	PCA商事

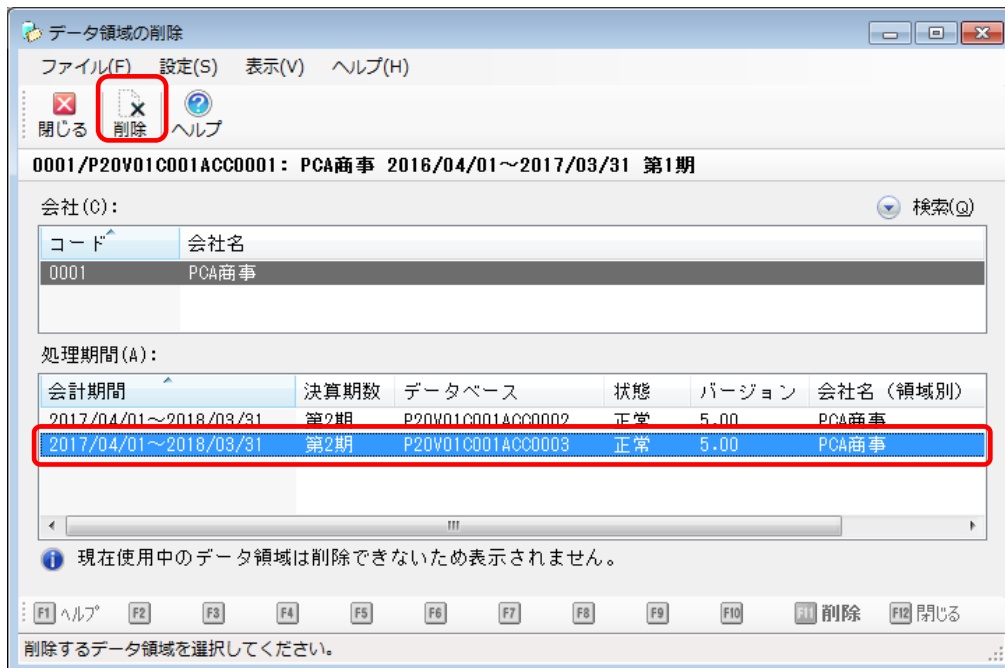
- ⑤ 「ファイル」－「データ領域の削除」を起動します。
確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。



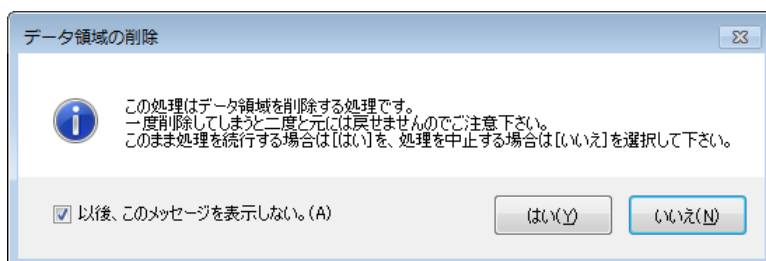
- ⑥ 「データ領域の削除」画面が表示されますので、削除したい領域を選択して、[削除] ボタンをクリックします。

第2期の「P20V01C001ACC0002」と「P20V01C001ACC0003」のうち、「P20V01C001ACC0002」に仕訳データなどは入力されていた場合は、「P20V01C001ACC0003」を選択して削除します。

※ ここでは、起動している第1期（④で選択した領域）は表示されません。



- ⑦ 削除の確認メッセージが表示されますので、よろしければ「はい」を選択します。



ここまでで、削除の処理は終了です。必要な場合は、引き続き再更新を行ってください。